

本人参画のワークショップ等を経た、 認知症施策の方針共有と多資源協働 の基盤づくり

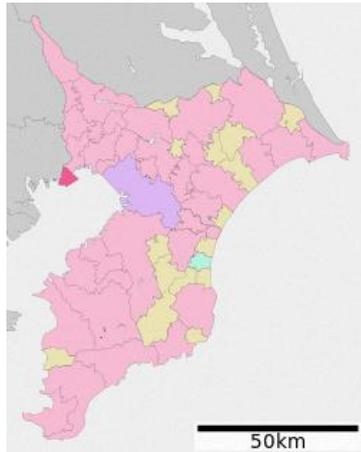
浦安市について

漁業権放棄による海面埋め立て事業が行われた結果、総面積はかつての4.43平方キロメートルの約4倍の16.98平方キロメートルに拡大。

昭和58（1983）年には東京ディズニーランドがオープン、その後も周辺地区に大型リゾートホテルなどが建設され、国際色豊かなまちに。

浦安市の特徴

浦安三社祭、東京ディズニーリゾートを中心とした観光業など地域によって、その趣が違ふという特徴がある。



浦安市の高齢者人口について

平成31年4月1日現在

総人口	170,254人
65歳以上人口	29,227人
高齢化率	17.17%
65歳～74歳	16,602人 (56.8%)
75歳以上	12,625人 (43.2%)



令和4年1月1日現在

総人口	168,658人
65歳以上人口	30,858人
高齢化率	18.30%
65歳～74歳	16,550人 (53.6%)
75歳以上	14,308人 (46.4%)

地区丁目別高齢化率(令和4年1月1日現在)

総人口	168,658人
65歳以上	30,858人

市全体	18.30%
-----	--------

元町	14.21%
----	--------

中町北部	30.62%
------	--------

中町南部	23.94%
------	--------

新町	13.33%
----	--------

丁目別高齢化率ランキング

元町	
丁目	高齢化率
堀江1	16.88%
堀江2	18.86%
堀江3	18.52%
堀江4	18.14%
堀江5	17.75%
堀江6	13.64%
富士見1	10.99%
富士見2	12.18%
富士見3	11.07%
富士見4	11.21%
富士見5	8.12%
猫実1	23.20%
猫実2	16.08%
当代島1	15.51%
当代島2	17.97%
当代島3	16.38%
北栄1	10.78%
北栄2	12.44%
北栄3	10.14%
北栄4	10.14%
猫実3	22.93%
猫実4	21.14%
猫実5	15.79%

中町北部	
丁目	高齢化率
入船1	23.85%
入船2	40.31%
入船3	35.94%
入船4	23.03%
入船5	38.21%
入船6	39.26%
美浜1	27.59%
美浜2	25.06%
美浜3	44.94%
美浜4	39.62%
美浜5	38.18%
海楽1	19.54%
海楽2	25.65%

中町南部	
丁目	高齢化率
東野1	11.13%
東野2	12.11%
東野3	31.36%
富岡1	31.35%
富岡2	25.99%
富岡3	36.44%
富岡4	29.10%
今川1	12.83%
今川2	15.79%
今川3	12.24%
今川4	28.72%
弁天1	15.00%
弁天2	34.26%
弁天3	38.15%
弁天4	30.66%
舞浜2	39.37%
舞浜3	33.13%

新町	
丁目	高齢化率
高洲1	11.76%
高洲2	19.27%
高洲3	15.54%
高洲4	5.73%
高洲5	11.95%
高洲6	20.32%
高洲7	8.14%
高洲8	4.28%
高洲9※	100.00%
明海1	25.46%
明海2	11.40%
明海3	8.34%
明海4	13.33%
明海5	11.57%
明海6	11.88%
日の出1	30.79%
日の出2	11.27%
日の出3	12.43%
日の出4	7.79%
日の出5	9.17%
日の出6	4.81%
日の出7	5.68%

	丁目	高齢化率
1	美浜3	44.94%
2	入船2	40.31%
3	美浜4	39.62%
4	入船6	39.26%
5	舞浜2	39.37%
6	美浜5	38.18%
7	弁天3	38.15%
8	入船5	38.21%
9	富岡3	36.44%
10	入船3	35.94%
11	弁天2	34.26%
12	富岡1	31.35%
13	舞浜3	33.13%
14	東野3	31.36%
15	日の出1	30.79%

超高齢社会地区（21%以上）
29地区
 高齢社会地区（14%以上）
16地区
 高齢化社会地区（7%以上）
26地区
 高齢化率7%未満の地区
4地区

※高洲9は特養のみ

浦安市は千葉県内で一番若いまちと言われますが・・・

認 知 症 施 策

めざしていること（方向性）・方針

○本人とともに

- ・本人が発信、参画、社会参加

○地域とともに

- ・地域の多様な立場、多世代の人たちがともに

認知症施策推進体制

認知症総合施策検討委員会

(三師会、ケアマネ連絡会 介護事業者協議会 地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等)

認知症施策の検討及び評価、初期集中支援チーム委員会

認知症地域支援推進員 (13名)

月1回の会議で認知症施策の方向性の共有や具体的な検討

市役所	3名	社会福祉士・保健師・作業療法士
直営包括	1名	社会福祉士
委託包括	4か所 6名	社会福祉士・保健師・看護師・ケアマネ
委託事業者	1か所 2名	主任ケアマネ
老人福祉センター(社協)	1か所 1名	社会福祉士

認知症サポート医 (14名)

初期集中支援チームへチーム員として参加
認知症地域支援推進員との連携

認知症地域支援推進員の取組

- 月1回の連絡会実施
- 認知症施策の方向性の共有、
具体的な市の認知症施策を検討する場
- 小学生向け認知症サポーター養成講座
カリキュラム作成
- 認知症啓発イベントの企画、運営
- 条例素案作成
- チームオレンジ検討
- 推進員研修のフィードバック

- ・自主的な取り組みとするため、年度初めに当該年度の担当プロジェクトを決める。
- ・上意下達にならないように、自由な議論を心掛けている。

認知症地域支援推進員としての課題

○本人意見の発信は必要なことだけど、本人ミーティングが目的にならないようにしたい。

また、自分の意見を表明できる認知症の人がいるだろうか？

○介護保険サービスの提供だけでは解決できない生活課題にどう対応するか。チームオレンジどうしよう・・・

本人意見の発信

令和2年9月15日号広報

No.1154 2020年(令和2年)9月15日発行

主な内容
 令和2年 国際賞 ほか 3冊
 令和2年度達成式 ほか 8冊

発行/浦安市
 所在/〒270-8501 千葉県浦安市
 編集/〒270-8501 浦安市
 〒270-8501 1-11-1(15階)
<http://www.city.urayasu.lg.jp>

市の人口総数 人口=170,852人(-264) 男=83,385人(-124) 女=87,467人(-140) 世帯数=82,551世帯(-153) 令和2年度月間発行(1)は別冊

各記事に掲載しているIDを、市ホームページ上の「広報ページID検索」に入力すると、該当ページが出来ます。これにより、記事を探す手間を省けます

みなさんが認知症の大切な理解者です

まわりの活動がすべてを生きる仕事をしていく認知症の方。遠くまで来た40代とアルツハイマー認知症と診断されました。今は認知症を認め、前向きに生活しています。

今は認知症への理解とケア。「世界アルツハイマー月間」です。認知症について正しく理解し、思いやりの気持ちを持つことで、誰もが自分らしく笑顔で暮らせる社会を目指します。

高齢者包括支援課 ☎381・9028

毎日充実しています
 仕事が好きで、週に5行っています。楽しくて毎日暮らしたいです。月に2回認知症の方の集いに参加し、他者と一緒にお話や外食するのが楽しいです。

こんな工夫をしています
 ボタンが大きな大きな洋楽を聴き、必要なものを手につけるようにしています。外出時は建物や施設、建物を印刷して目的地へ向かいます。

困っていることもあります
 入付き合いが難しいです。自分の発言で振り回されることが多いので、自分から人間関係を広げることができません。会ったことはある、でも名前がわからない、失礼になってしまっているのではないかと心配になります。

2面へ続く

2 広報うらやす No.1154 2020年(令和2年)9月15日号 「広報うらやす」が市ホームページでご覧になれます

笑顔でいられる環境を目指して～支えろ人の声～

認知症になった私から伝えたいこと

認知症になって一番辛い思いしているのは本人です。何回も悩んで、家族もいつかどうにか早く死なせます。笑って対応してもらえただけでも安心します。認知症になりたくないから、認知症一つ「認知」と考え、あきらめずに生きていこう。暮らしと仕事は認知症には関係ありません。笑って話してはほしいと伝えたいので、思いやりが家になり、支援も受けやすくなります。

同居室家族の方
 弟は同じじり暮らしな生活でしたが、地域包括支援センターから「認知症の集い」を紹介して下さったことがきっかけで、弟の事がつぎになりました。生き生きと仕事している様子を知ると、弟の世界が広がってよかったと感じています。認知症の症状が原因で悩むこともあります。弟ではわかっていても難しくしてばかりではありません。弟の集いで知ることがあります。弟ではわかっていても難しくしてばかりではありません。弟の集いで知ることがあります。弟ではわかっていても難しくしてばかりではありません。弟の集いで知ることがあります。

佐藤さんの主治医(高木メンタルクリニック) 高木先生
 佐藤さんの診察で印象に残っているのは「認知症になって社会から排除されしまったように感じます(ご心配)と涙ぐんで話していたことです。生き生きとしたような笑顔がずっと必要だと感じました。今の社会を助けてあげたい。自分に役割があり、人の役に立っていることがうれしい」とにこやかに話してくれました。佐藤さん自身の力と生活環境を支える家族や事務所、スタッフの力が非常に大きいと思います。

認知症は早めの相談・受診が大切です。
 お近くのもつな(地域包括支援センター)へご相談ください。

高齢者保護情報共有サービス

認知症などが原因で、外出時に家に戻れなくなったとき、身の回りや関係者の人が気づきし助けが不可欠になります。QRコード付きのラベルシールを、地域包括支援センターやスマートフォンなどで読み取ることで、インターネット上の保護情報を利用して、見守りや連絡を可能にすることがあります。

対象者
 市内在住のおおむね65歳以上の、在宅で介護を受けている高齢者。または認知症の方
 ※申請は、介護や家族の方
 ※QRコード付きラベルシール
 40枚1組(射丸ラベル30枚+露光シール10枚)を、無料で配布します。
 ※高知障は自己負担

浦安市
 Urayasu City

▲各駅中継などに貼るシール。法の範囲でご利用いただけます
 ▲高齢者福祉課 ☎381・9071 ID 1029848

9月はアルツハイマー月間です

認知症は一般的に高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合「若年性認知症」と呼ばれます。市には、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、早期診断・早期対応の体制を整えています。

また、日常生活で認知症への理解を深めるために、認知症の方や家族と交流できる認知症カフェなどのさまざまな活動を行っています。この機会にぜひご自身も認知症への理解を深めてみませんか。

浦安市 内田 悦樹
 前 9月16日(木)～29日(日)
 市 高知障課
 認知症サポーター養成講座
 「認知症って何?」私たちにできることは?」といった内容をわかりやすく説明します。
 前 高齢者包括支援課 ☎381・9028

・平成30年度より委託事業で若年性の集い実施。集いを通じて、広報や情報番組で名前や顔を公表してもよいという当事者が現れる。

→ とはいえ、すぐに話をしてくれるようになった訳ではない。集いが本人にとって信頼できる場所になり、役割を持つことができる新たな場所が見つかったから話せるようになった。集い参加から約3年間。



情報番組の動画はこちらから
 3:15から13:20の間

認知症条例の制定 (令和4年3月議会に提出予定)

条例制定のコンセプト

- 認知症になると何もわからなくなるといふ、古いイメージを変えたい
 - 認知症は、他人事ではなく、誰もが当事者及び関係者になる
 - 認知症の課題を、医療、介護の個別の課題として捉えるのではなく、生活全般に関する地域全体の課題として捉えたい
 - 認知症の人及び家族等を含む誰もが希望する暮らしを実現できる地域社会にしたい
- 令和2年10月、条例制定の準備に動き出す。

認知症条例の制定の意義

○施策推進力への期待

議会の議決を経るという民主主義的なプロセスを経ることで、施策の正当性が増す。また、予算措置への理解も期待

○政策の安定性

制定された条例の改正及び廃止には議会の議決が必要。条例に書かれた理念を順守することが求められ、政策の方向性が安易に変更されない、人事異動の影響も受けにくい

○広報的効果

条例本文や逐条解説の広報やHPでの周知。条例を基本としてシンポジウムや講演会等の開催を行うことで、広報的効果が増す

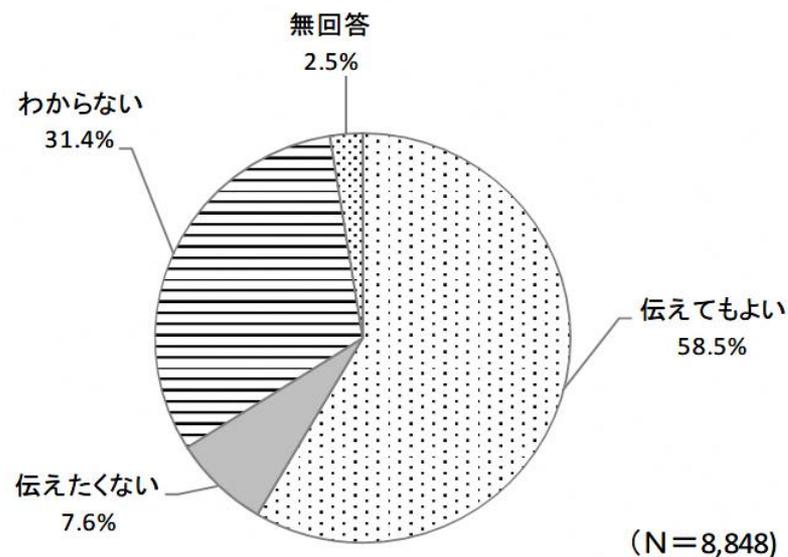
認知症のイメージについて

浦安市高齢者等実態調査 令和元年12月～令和2年1月実施

有効回収数8,848名 （主な調査対象：要介護認定を受けていない高齢者）

自分が認知症になった場合に周囲に自分が認知症であることを伝えてもよいと思う割合

→**58.5%**



条例制定に向けてのこれまでの取り組み

認知症という地域課題に対応するため、市、本人・家族等を含めた市民、地域組織、関係機関・事業者等多様な主体が連携する必要がある。そのため様々な立場の方の意見を聞く取り組みを行い、条文の内容を検討している。

ワークショップ

参加者：本人、家族、地域住民、民間事業所、関係機関、認知症地域支援推進員

本人ミーティング

認知症の方が集まって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、暮らしやすい地域のあり方を話し合う。

個別ヒアリング

対象：本人12名、家族6名、民間事業所14社（公共交通機関、金融機関、商店、ホテル、スポーツクラブ）、関係機関2か所

アンケート

- ①Uモニ（593人）
- ②学生・事業所従業員（408人）

認知症条例の制定プロセス ～本人ミーティング～

○本人ミーティングの開催

条例制定に向けて、まずは認知症の人が声を出せる機会、その声を聴くための機会として本人ミーティングを開催したい。

そして、本人の声を、幅広い人たちがともに聴き、話しあうための、本人、家族、市民活動をしている市民、介護事業者、一般事業者が参加したワークショップを開催したい。

→広報で本人ミーティング参加者を募るも、希望者ゼロ

→認知症地域支援推進員がそれぞれ、自身の関わりのある方にヒアリング。また、ケアマネ連絡会等の関係機関にヒアリング対象者の紹介を依頼し、当事者12名にヒアリングを実施。

その結果、6名が本人ミーティングに参加。

本人ミーティングの様子

会場：図書館 ワークスペース



本人： 60代 ~ 80代

認知症条例の制定プロセス ～本人ミーティング～

継続的に開催

本人からの意見

○躊躇なく外出しています。困ったら人に道を聞く、親切に皆道を教えてくれる。

○自分はまだ若いほうだし、身体も元気なので自分がしてもらおうというより、周りを温かくするようなことをしたい。

→困りごとの意見が出ると思っていた。(認知症地域支援推進員の偏見)

○こうやって集まれる場があるのはうれしい。認知症のことをこうやって話せる人は少ないだろうから、代わりに意見を代弁してもらおうということも必要ですね。

○周りの人が、という以前に、家族が認知症をどう思っているかが大事で、家族も認知症になった自分をふつうに受けて入れてくれたら、と思う。

○僕の頭の中身を見ていないのに、「認知症に見えないですね」と言われることがある。人それぞれなのに・・・

認知症条例の制定プロセス ～本人ミーティング～

○本人ミーティングを開催してみても大事に思うこと

★話をできる当事者がいるか？

→いる。私たちが出会っていないだけ。もしくは出会っていても介護サービスの話しかしていないだけ。我々が持っている固定観念は少々やっかい。本人意見の発信は大勢の前で話すだけではない。ストックして伝達することだってできる。

★どんな話をすればいいのか？

→なんでもいい。その中から「そうなんだ」と腑に落ちる意見が出てくる。いきなり、「認知症施策どうですか？」と聴いても難しい。自然と認知症について会話が弾む場面もある。

★どんな雰囲気作りが必要？

→認知症でない人でも集められて「さあ、話してください」と言っても話せない。その場が信用できて、落ち着けることが大事（花、BGM、アイスブレイク、同席するメンバー等）。

★どんな効果がある？

→たくさんある。本人にとっては自分の居場所となりえる場合も。周囲にとってはともに過ごす時間があることで、意識の変化等が考えられる。

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップ開催

- 条例制定にあたっては、ご本人、ご家族、関係機関、事業所、地域の方等の声を聴きたい
- 条例のことだけに限らず、自由な意見を出し合う場
- 当事者の方のお話を聴いて、認知症施策担当者として、また、認知症地域支援推進員として、認知症観が変わった体験を持っている。他の方にも感じてもらいたい

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

第1回 令和3年4月30日（金）

・浦安市の認知症当事者の活動ぶりやお話

＊市の職員・推進員が撮影・編集した動画を視聴

・本日来ていただいたご本人からのお話

・グループディスカッション

（本人、家族、関係機関等様々な立場の方が混ざったグループ分け）



ディスカッションのテーマ

- 動画や認知症の当事者のお話を聞いた感想
- 認知症の私が、自分が認知症になったら、
どんな地域だったら暮らしやすいか、安心できるか
- 自分にできること

内訳	人数	備考
認知症の本人	3	
家族	4	
関係機関	6	
民間事業所	4	スポーツクラブ1、ホテル1、小売り業1、スーパー1
地域の方	3	浦安介護予防アカデミア傾聴班2、地域住民1
コーディネーター	1	応援役 認知症介護研究・研修東京センター永田氏
事務局	9	認知症地域支援推進員4、 中央地域包括支援センター1、 高齢者包括支援課4

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップでの意見

本人の好きなこと、楽しいこと

- ・マラソン。毎週末夫婦で10km近く走っている。フルマラソンも走ったことがある。
- ・人と話すこと。
- ・競馬、麻雀、将棋。

地域の現状

- ・偏見の目ってまだまだ世間にいっぱいあると思う。
- ・認知症を受け入れる体制、こころができていない。だから皆さん認知症だと表面に表わさない方が多い。
- ・認知症になった家族が、今までやっていたサロンに入っていくと「自分たちは認知症になりたくないからやっているんだから、来ないでくれ」と厳しい言葉をかけられた。
- ・（本人より）近所と交流がある、みんな優しい。この間、困った時も近所の人が助けてくれた。

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップでの意見

感想

- ・本人を交えたこのような機会はとてもよかった。
- ・本人の話聞いて、それぞれの方が認知症とは思えない。

今後の取り組み、課題

- ・認知症になる前もなった後も好きなものを持っていると、どんなことにも活かされる。好きなものは辞めずに続けていくことが大事。
- ・企業・本人・家族・専門職、皆が試行錯誤。一緒に考えることが大切。だが、本人や家族が認知症と（周囲に）言えないとつながれない。
- ・地域の中で誰が助けてくれるか、誰が声をかけてくれるか、求めている人が多いと思う。困っていても、自分から助けを求めにいけない人がいる。制度、サービスなど仕組みがあって利用者もいるが、実際足元までおりていってやっている、というのがまだまだ足りないと思う。

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

第2回 令和3年5月21日（金）

・地域の取り組みの紹介

＊地域の絵画教室で、絵を教えている当事者・運営者の方からの話

・グループディスカッション

（本人グループ、家族グループのように同じ立場の方同士のグループ分け）

テーマ

- 地域の取り組みを聞いて感じたこと
- 条例に盛り込みたいことについて
- 条例の名称



内訳	人数	備考
認知症の人本人	5	
家族	4	
関係機関	2	
民間事業所	3	スポーツクラブ2、ホテル1
地域の方	5	浦安介護予防アカデミア傾聴班2、地域サロン関係者2、地域住民1
コーディネーター	1	応援役 認知症介護研究・研修東京センター永田氏
事務局	10	認知症地域支援推進員5、高齢者包括支援課5

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップでの意見



地域グループ

○急に仲間を作るって簡単ではないと思う。

先生（本人）がもともと地域を盛り上げる活動をやっている、つながりがあったことがよかったのかな、仲間がいたから乗り越えたのかなと感じた。

→認知症になる前から地域活動とつながりを持っておくこと。

○関心がなかった。身近に認知症の方がいなくて知らない。

→どう関心を高めていくかが大切。関心を高める機会をどうするか。

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップでの意見

家族グループ

○介護サービスだけでなく、地域のインフォーマルサービス等を積極的に利用し、リラックスする時間を持つことを心がける。介護を一人で抱え込まない。

(周囲へ期待すること)

- 診断後のフォロー体制の充実…医療機関
- 介護者になる前からの、正しい理解…地域住民
- インフォーマルサービスの充実…行政・地域住民
- 相談機関の周知…行政、地域、企業
- 中・重度の方の施設での自分らしい暮らし…関係機関

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

ワークショップでの意見

企業・事業所グループ

- ・ 発達障害がある方、精神疾患がある方…色々な方の中に認知症の方もいるという感覚。産業的にみんな健康なことが目的。
- ・ 地域に出向いていくこともやっていきたい。ホテルに行って運動を教えたり。居場所作りが大切だと思う。

できそうなこと・やりたいこと

- ・ 個人飲食店等に認知症関連のパンフレットを設置
- ・ 認知症の方、家族が安心して外食ができる
- ・ 地域に出向いて居場所づくりを一緒にやる
- ・ 本人や家族の声を聴く機会をつくる
- ・ バリアフリーの設備
- ・ スタッフが認知症サポーター養成講座を受けて準備しておく
- ・ 認知症の方（特に若年性）の雇用を守る

認知症条例の制定プロセス ～ワークショップ～

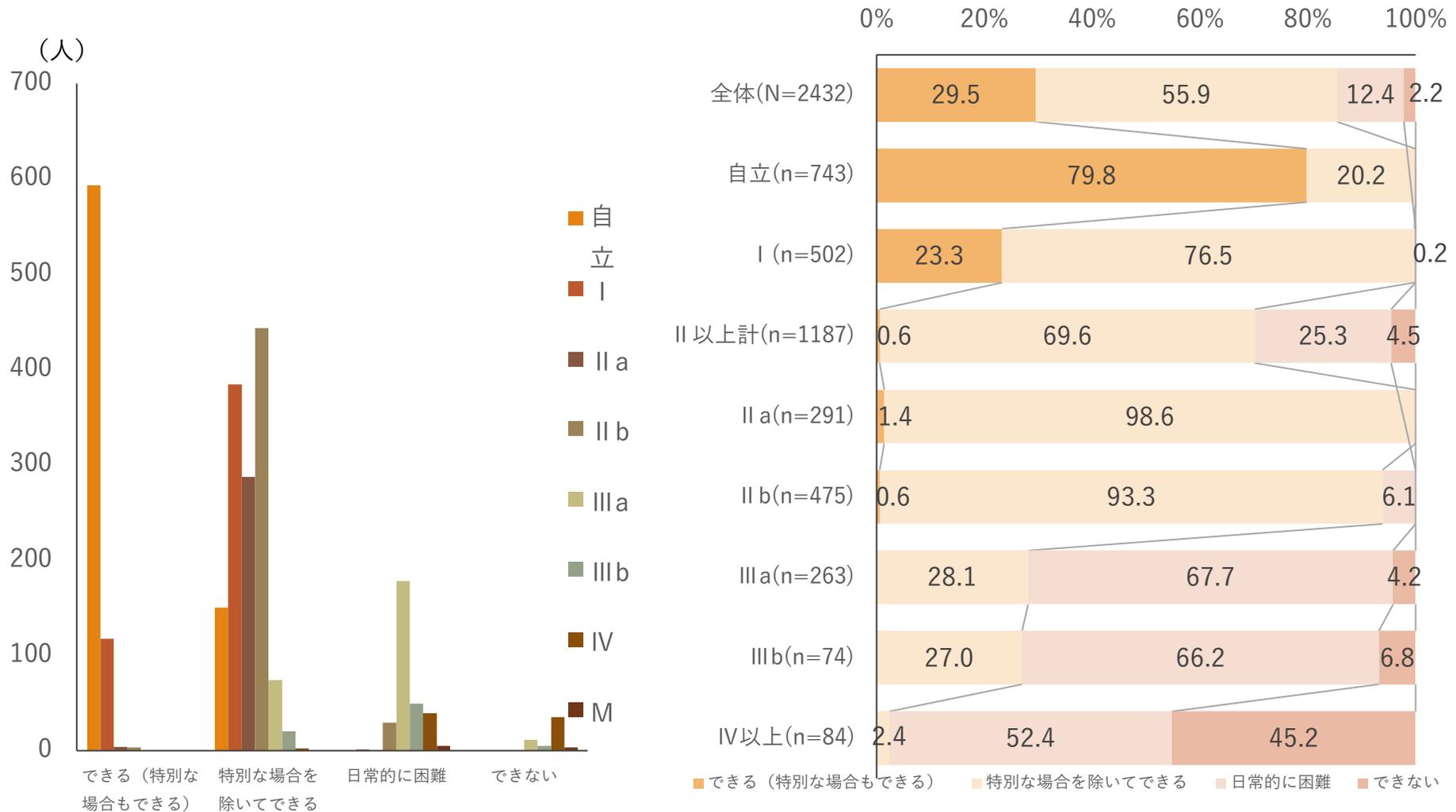
○ワークショップを開催してみても大事に思うこと

★日頃の業務における多職種・他業種・地域の方々との連携・つながりがあり、生活関連産業含む様々な立場の人に参加いただくことができた。ケース対応、協議体、介護予防事業、プライベートでの活動等、各認知症地域支援推進員が大事にしてきた様々な方との出会いが参加と前向きな話し合いにつながった。

★どんな効果がある？

→様々な立場の方が、認知症の方とともに時間を過ごすことができ、認知症観の変化があった。
→自分事として、自分たちにできることを考える機会。

日常の意思決定と認知症高齢者自立度



出所：令和2年度中に認定審査会を行った2,432名の介護認定調査票情報より作成

認知症の人本人の活動報告～市民向け研修の講師～

昨年度の広報特集記事を見た浦安市社会福祉協議会より事務局へ相談…市民後見人スキルアップ研修で、認知症の方本人のお話が聞きたい、困っていることや、気持ちなど聞かせてほしい。

10月23日（土）13：00～14：30 東野パティオにて、当事者が講師となって
市民後見人スキルアップ研修開催！！

講師…認知症のご本人

82歳 要介護度1 おひとり暮らし

デイサービス 週6日利用



認知症の人本人の活動報告～市民向け研修の講師～

Sさんのお話

● **食事について** 一人暮らしで食事を毎日3食とること、それが一番大変で心配なこと。自分の好みに合わせて食事を届けてくれる娘には素直にありがとう、と思っている。ご飯食べた？と聞かれて、本当は食べていない時もあるけど、食べたよ、というようにしている、心配かけたくない。

● **デイサービスについて** 毎日行くけど、行きたくない日もある。気が合わない人がいる日。我慢して行っている。

● **楽しいこと** こうやって皆で話をする時間は一番楽しい。今日はたくさん人がいるけど、皆あまり話さないね。自分ばかり話をするより、皆の話も聞きたいと思う。皆と一緒に弁当を食べるってこともやってみたい。

● **やりたいこと** 孫と将棋をしていて、二人でそれぞれお茶を飲みながらやっていた。途中、二人ともコップが空になり、孫は自分の分だけコップにお茶を注いだ。そういうときは「おじいちゃんも飲む？」って聞けばいいんだよ、と言った。余計なことかもしれないけど、自分は子どもと関わってそういうことを教えてあげたい。

認知症の人本人の活動報告～市民向け研修の講師～

研修に参加した人の声

- 娘さんが、一日おきに食事を届けたり、家事を手伝って、一人暮らしのご本人の日常を支えている。娘さんとの交換日記にご自身の思いを書いたり、ありがたい気持ちを伝えていて、**全部がわからなくなるのではないんだとわかりました。**
- お話を聴いて、**改めて認知症の症状の多様性を認識しました。**
- 認知症との上手なお付き合いのヒントも色々と教えてもらえたと思います。
- これから老いていく私たちにたくさんのアドバイスをいただきました。
- 自分の話に興味を持って聴いてくれる人と話したいという気持ちは、**
認知症であってもそうでなくても同じ。
- 研修生の**緊張を、ご本人にほぐそうとしていただいた気がする。**

認知症があってもなくても同じ



浦安市の条例は・・・

○現在、条例制定の最終コーナー！

- ・ 条例制定のプロセスを、市のホームページで逐次、情報公開。
- ・ 多様な市民・関係者の幅広い意見を集めながら、話し合いと合意形成を、粘り強く続けています。

☆ 2022年夏の条例制定を、みんなでめざす！

認知症施策・方針の共有



○条例はあくまでも手段

→本市は条例を制定する過程で、本人が参画したことで、庁内・庁外の多様な主体との施策・方針の共有ができた。条例はあくまでも手段。引き続き、施策をつくり推進するプロセスを、これからも本人参画で進めていきたい。

○上司の理解

→「認知症は誰でもなる（完全に予防できない）」、「認知症になっても何もわからなくなるわけではない」という点について、市長と共有することができた。また、管理職が認知症の当事者の話を聴き、ともに過ごす機会を得ることも重要。
→施策の方針への理解度アップもねらい

○「本人とともに過ごす」を通じて、一緒に取り組む仲間を増やす

→これといった特別な施策を行っている訳ではない。常に悩みながら試行錯誤、やってみながらの転換も度々。まだまだ道半ば。市だけでは何もできないと腹をくくり、共に認知症施策をつくり上げていく仲間として認知症地域支援推進員が同じ立場で議論することを意識

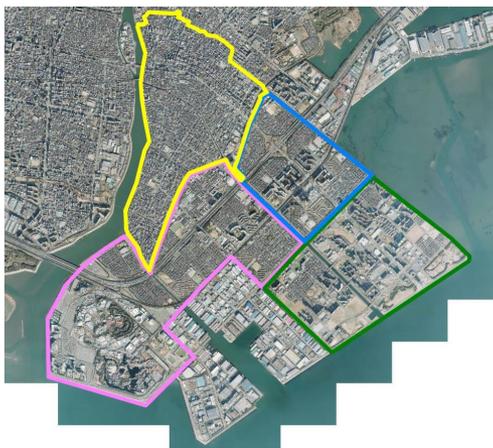
今後の課題

○多様な主体との連携：ともに生きていくために
→認知症を医療・介護の個別の課題とするのではなく、生活全般に関する地域の課題ととらえる必要性。

個別ヒアリングやワークショップ、その前後(現場に出向く等の日頃の関係作り、意見を聴きながらの事前準備、やってみたことの情報・意見のまとめ・資料化・共有等)を通じて、連携の種はまけた。

今後どうやって、地域のより多様な民間事業者の関心を高め協働していくか。

- ・令和3年度より、認知症総合施策検討委員会に商工会議所が参加。
- ・「認知症とともに生きるまちづくり応援店事業」
- ・UDFC (urayasu dementia friendly club)



本人、地域の小さな声と力、可能性を大切に
とものつくりだしていく、一步一步
* 施策・条例を通じて、持続発展的に！